

東京パサージュ



今、自分達がどこにいて何をしているのか？

どのような世界で生き、どのように生活しているのか？

集団によりコントロールされた現代の世界では今この世界を再認識する事が大事である。

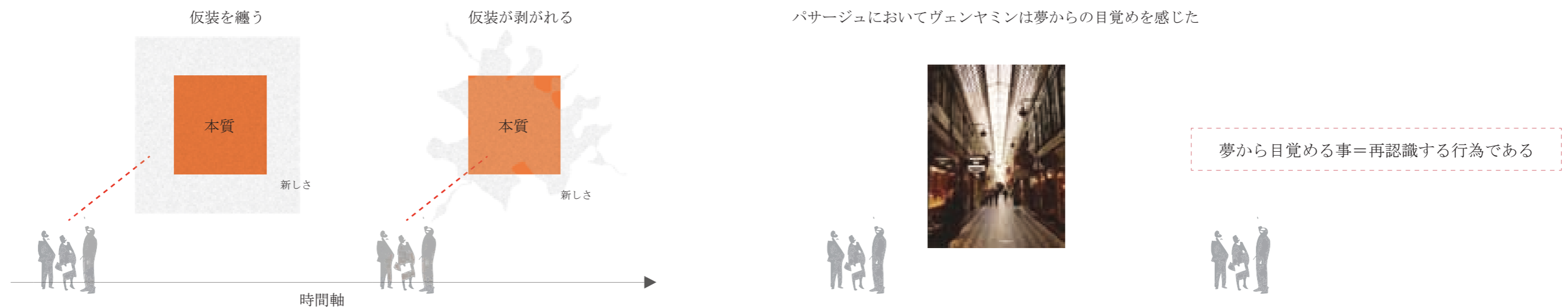
集団の中に埋没した『個』を覚醒させるため 21 世紀東京におけるパサージュを考案する。

パサージュ論

人間が集団的無意識として持っている根源的感情や太古的不安や願望は、社会のなかに新たなテクノロジーが生み出され、人がそれに特有の表現様式を与えようと機能性と装飾性の間で模索するとき、その表現様式の中に、もっとも明白な形で現れようとする。しかし、テクノロジーの急速な発達により、従来のテクノロジーに比べて新しい側面のみが目に入り込み、その根源性は隠蔽され、同時代の人には見えない。つまり集団として夢を見ている状態にある。ところがテクノロジーが古び、その新しさというヴェールが剥がれ落ちると、本来表現されていたはずの根源性が現れる。そして、そのようなときに人は、集団としての夢から目覚める。

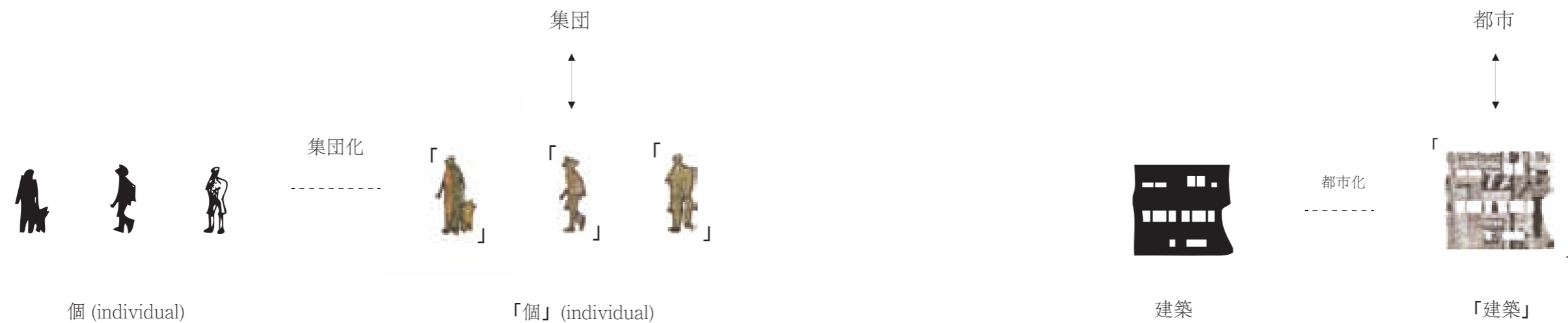
19世紀、パリには、多様な文化や新しい技術が溢れていた。その中で急速なテクノロジーの発達により鉄とガラスで覆われた”パサージュ”が出現した。そして、その新しいテクノロジーにより包まれた姿、つまり「仮装」した姿は人々に夢をみさせた。しかし、が過ぎ、その「仮装」が剥がされた時、人々は夢の中にいながら、そこが夢だと気がつく。

ベンヤミン



ノイズ

21世紀東京において文化や価値観を持った個 (individual) が多く存在している。そして、それらが集まり集団を形成しているように思われる。しかし個の集合体が集団となるのではない。なぜなら個は集団形成のうちにその集団に適応するような、すなわち集団化された「個」へと変えられていくからである。言い換えれば、個はノイズのない個として集団の中に埋没し、その集団の中でノイズを纏った「個」に変化し存在している。したがって実際にはそのような「個」が集団を形成していると言えよう。また集団は「個」なくして形成されない一方で、集団は個が「個」になるように要求してくるといふ相互作用の関係にある。このような傾向は建築においても顕著に見られる。それは都市形成のなかで建築が都市化された「建築」へと変わっていった。言い換えれば、建築も都市形成のなかでノイズをまとっているといえる。



集団としての夢

しかし、このような構造の中で個は、自身が「個」であることにさえ気がついていない。ベンヤミンの言葉を借りるならば、「集団として夢を見ている状態」にある。

ここでの問題はノイズのある「個」や「建築」それ自体ではない。そうではなくて、ノイズがあることに気づかないままにいること、さらにはそれを当然視してしまうことこそが問題なのである。



夢からの目覚め

そこで我々は人々が当然視している世界とは異なる世界を示す。そのことで、人々の世界観を動揺させ、その世界観の再認識を促す。
そしてその再認識によって人々にノイズのある世界を意識させることが、集団として夢を見ている状態から目覚めさせるきっかけとなり得る。



異なる世界

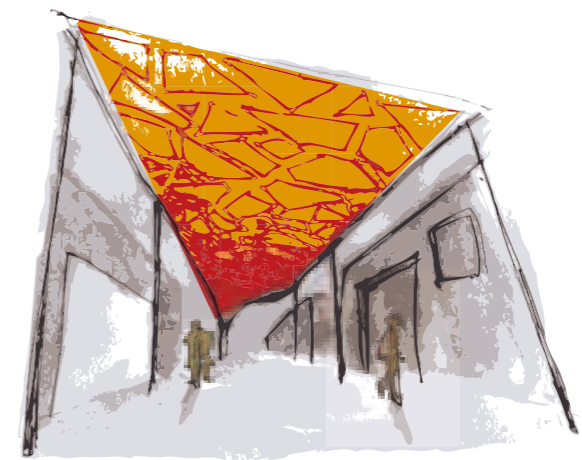
今いる世界にはノイズが溢れている。その世界とは異なる世界。それはノイズをはぎ取っていった世界なのではないのか。

しかし、集団の中で生活する我々にとって完全にノイズをはぎ取る事は出来ない。そこで、ノイズを最小限化 (Minimalism) していった世界こそが異なる世界となり得る。



Program

街には遊歩者が存在する。たとえ一つの建物が異なる世界を想起させる物だとしても、それには『そこに行く』と言う行為が必要である。しかし、そのような場が必要に感じる人はすでに、夢の中から目覚めている可能性が高い。そうではなく異なる世界を想起させる場とは、遊歩者が無意識的にその場に入りこみ、感じる場でなくてはならない。一方で街路空間では遊歩者が街を散策している。人が無意識的にその場に入り込み、感じる事が出来る場が存在する。そこで街路空間に延々と単調に続いていく屋根をかけ、異なる世界を遊歩者に想起させる。



Diagram

装飾

ノイズを切り取り最小限化していった世界を想起させる物として矩形を削り、Minimal 化したものを提唱。
それらが無作為に集合し、ただひたすらに、単調に、集まった物だけで構成される。(Minimalism)

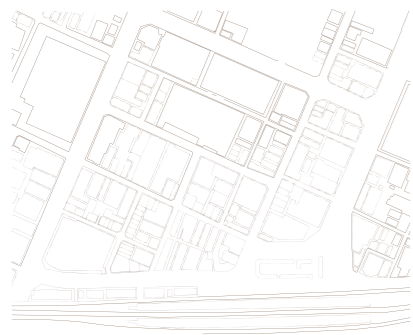


minimalism

Diagram.2

広がり

パサージュは街路空間全体を包み込む。結節点の多い吉祥寺の街路において、遊歩者もその結節点にあつまる。歩行者の動きの流れに沿い、パサージュは結節点から広がりを持ちながら街路全体に覆い被さっていく。



site
tyokyo kitijyoji

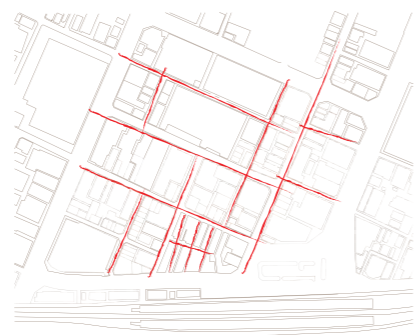


fig.1



fig.2

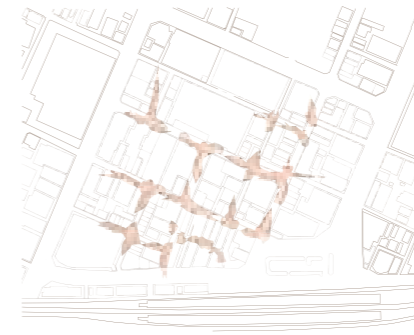


fig.3

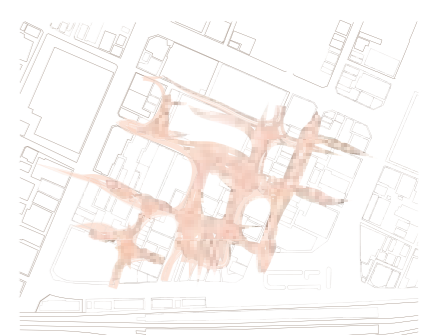


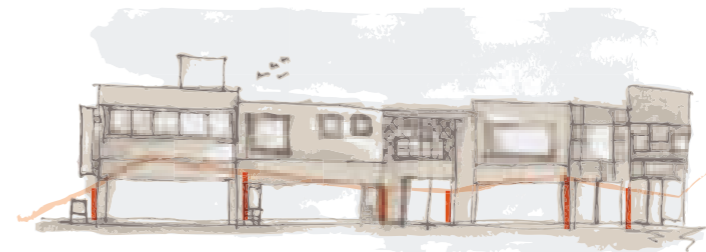
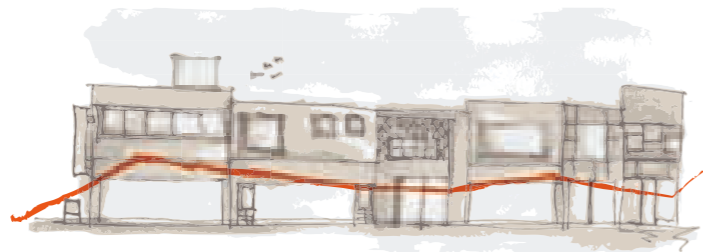
fig.4

Diagram.3

高さ・柱

吉祥寺のコンテキストに合わせ、パサージュはかかっていく。

建物の開口によりパサージュの高さは変化をし、建物の間隔で柱が落とされていく。



Site

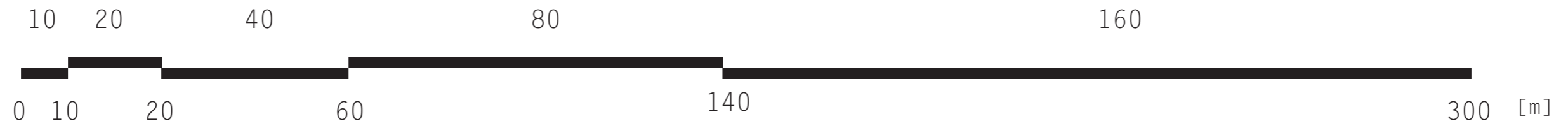
場所は吉祥寺、ここには多くの遊歩者が存在し、無作為に街路を歩いている

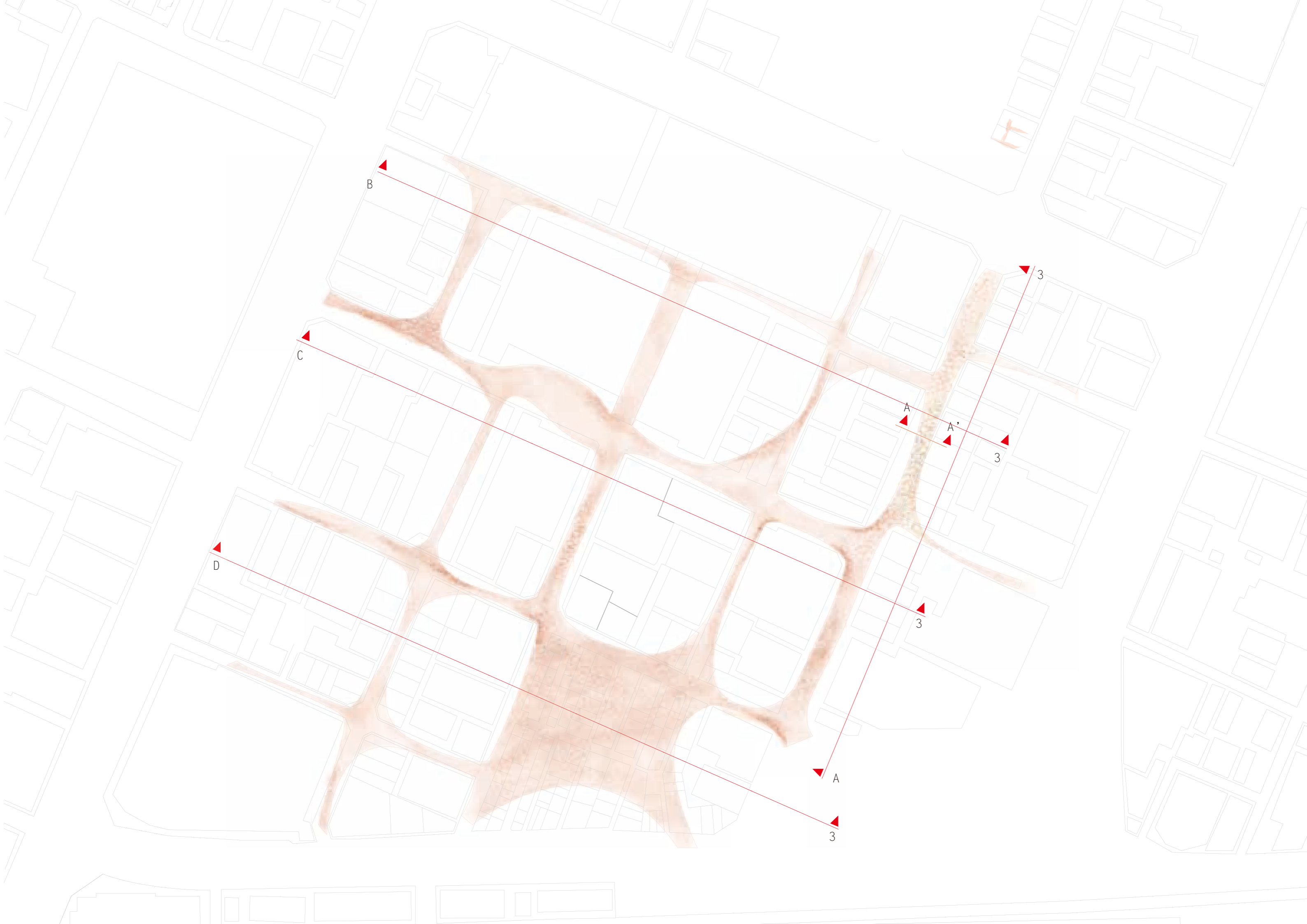


Plan.Roof

屋根

Roof Plan Scale 1:1000





B

C

D

A

A'

3

3

3

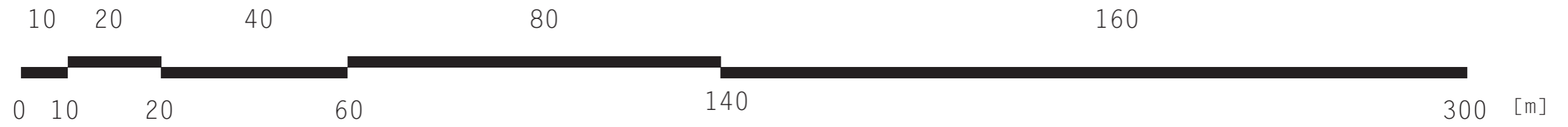
A

3

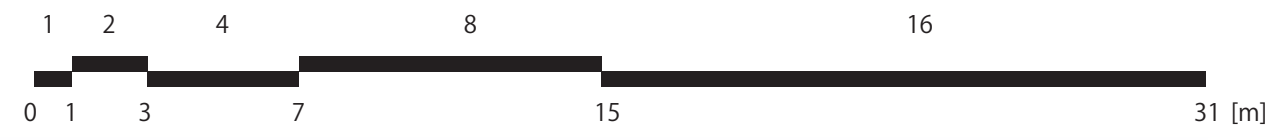
Plan.Pillar

柱

Pillar Plan Scale 1:1000 

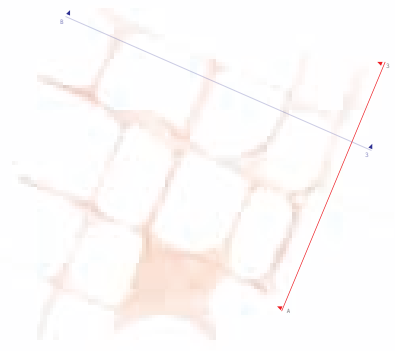


Elevation



Scale 1:200

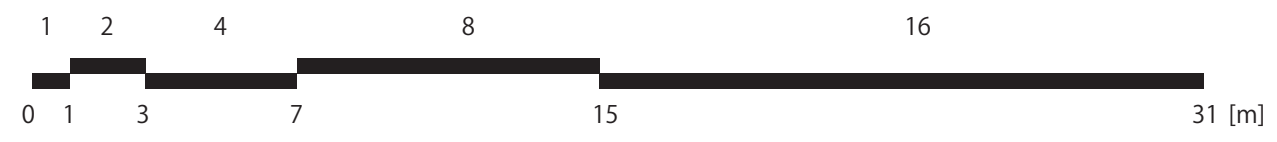
Redrine is "A3"
Bluerine is "B3"



A-3

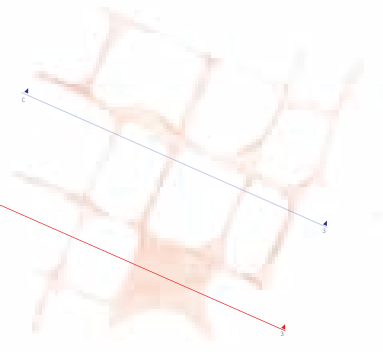
B-3

Elevation



Scale 1:200

Redrine is "D3"
Bluerine is "C3"



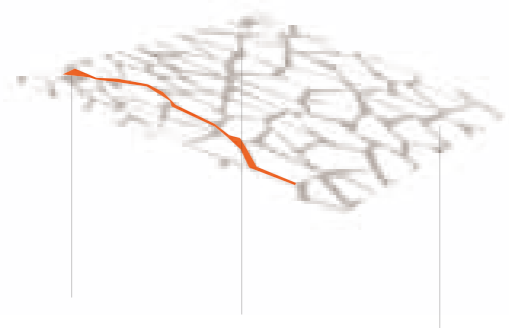
C-3

D-3

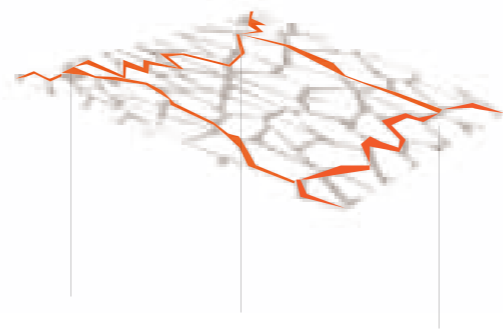
Section

Scale 1:50

unit



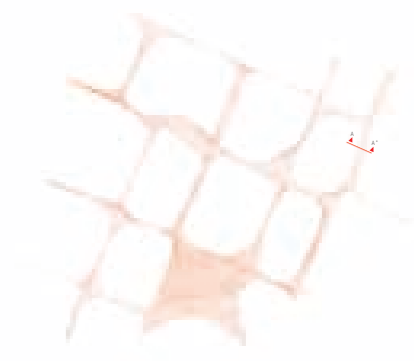
柄に沿ったライン



ユニットをくみ上げる



梁をかけていく

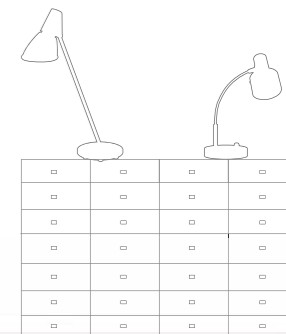
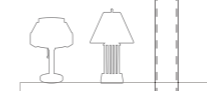
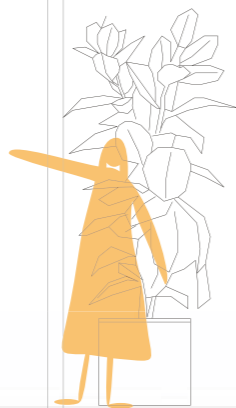
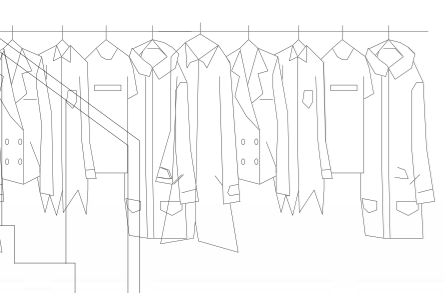


Redline is "AA"

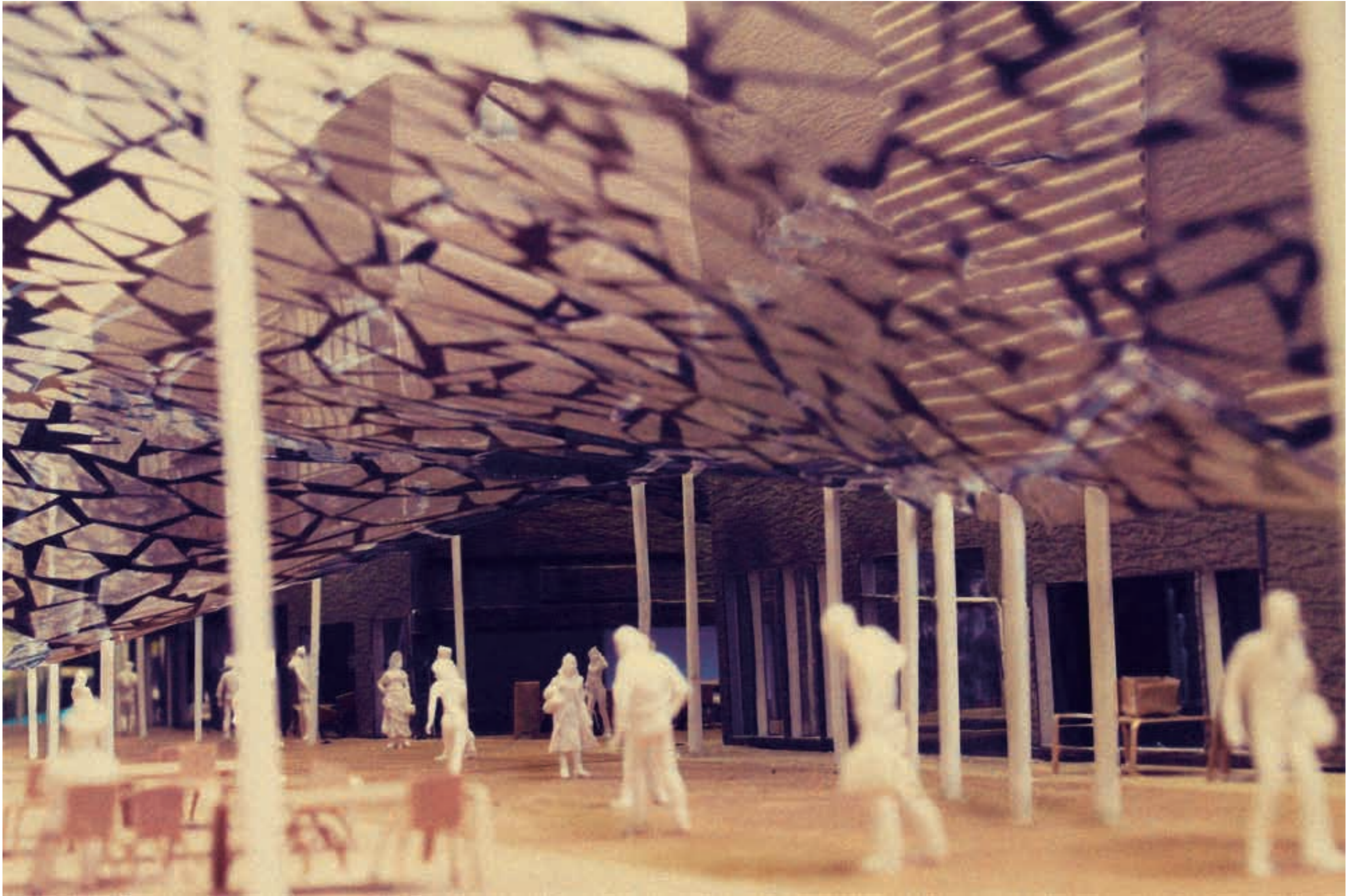
ガラス 10mm

CFT □150×150×6

H-100×150×6×9



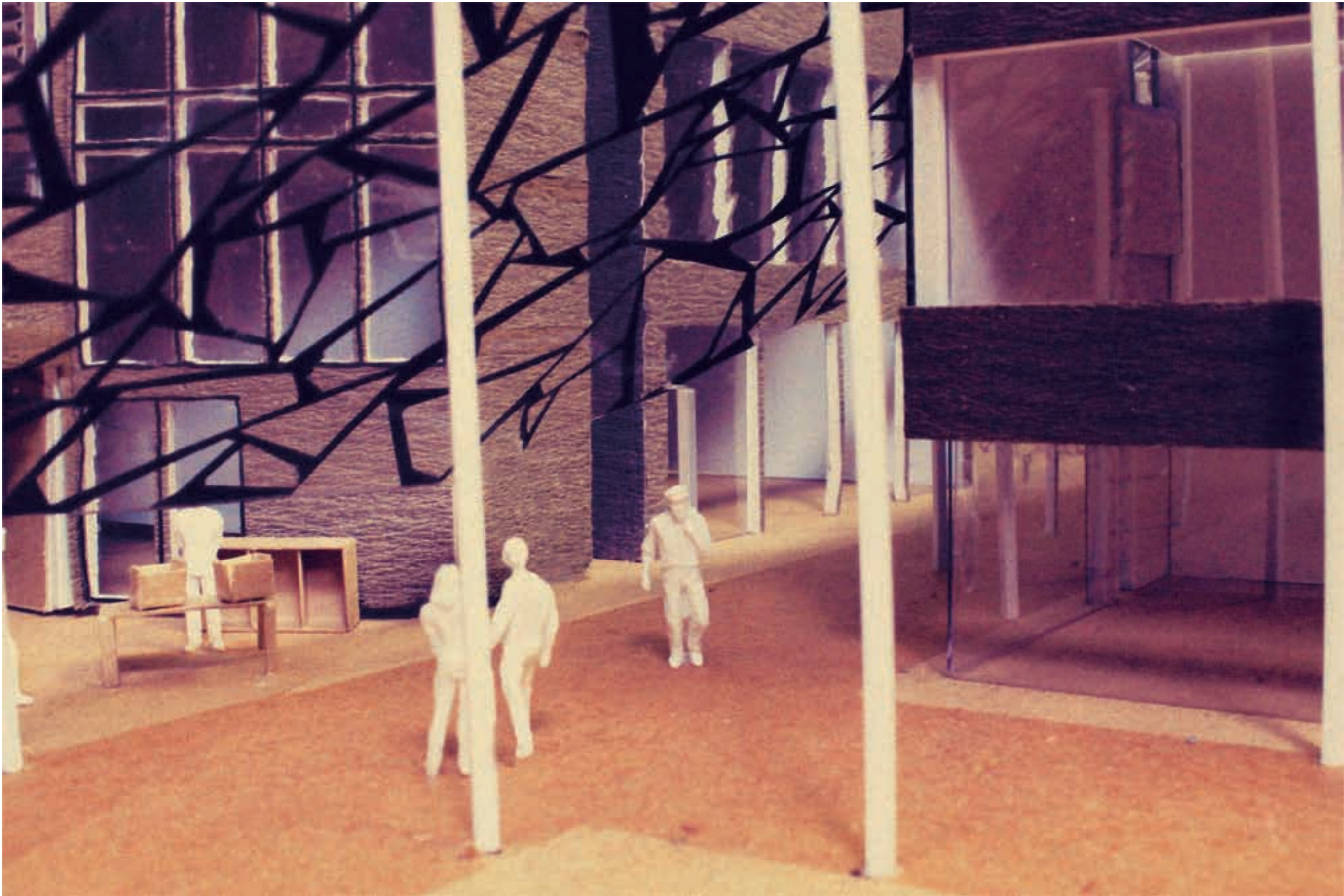
SectionA-A'



Photo_No. 1



Photo_No. 2



Photo_No. 3

人は今いる世界を再認識して夢から目覚める

しかし、すぐに人はまた新しい夢を見る

それは夢を見なくては、集団社会の中で生きていく事ができないからだ

だからこそ今、進み続けてきた社会の中で立ち止まり、この世界を再認識する必要がある

これは現代の今における夢からの目覚め方である